

—明けましてお目出度うございます—

● 主な活動の記録

10月4日(土) 「奈良坂集いの森」

—先駆的先導的森づくりボランティア活動支援事業—

奈良市内で子ども達を集め野外活動をされている宙塾と、現地に隣接の奈保町子供会から親子づれを含めた多くの参加を得て、我々の手で切り開いた竹林跡広場を使ってイベントを開催。

午前イベントの趣旨、「森と竹の話し」を聞いた後、竹の伐倒・枝払い・玉切りと、ヤマザクラ・カキノキ・ムラサキシキブ・ミツバツツジ計33本の植樹を、両グループ取混ぜてチームを組み、クラブ員が一人づつ付いて作業を行った。竹は切ったものの思い通りには倒れてくれずチーム力を合わせ倒せた後は歓声も聞かれた。植樹は竹林の後だけにクワでの根切りに格闘する姿があちこちで見られた。

昼食後、思い思いのメッセージを書き込んだ樹名板を植栽木にぶら下げた後、いよいよ皆がおまじかめの自然観察を兼ねたクリ拾いが始まった。思いの外かなりの収穫で「時間ダヨ、終了!」と呼びかけても多くが拾い続けていた。

引続いて午前中に切った竹を利用しての竹笛づくりに取組んだ。生竹だけに吹き口をのりで着けるのに手こずっていたが、根気良く固まるのをまって早速吹いて音色を楽しんだ。最後に茹であがったクリを手に手に家路についた。

来年度の下草刈り、竹切り等の作業に彼らが積極的に参加してくれますように。

竹の処理



植 樹



アッター!



竹笛づくり



10月11日(土) 「奈良坂集いの森」

—先駆的先導的森づくりボランティア活動支援事業—

近くで野外活動をしているエコパートナー21/イオンキッズクラブのメンバー20数名が参加。森林環境教育の一環として森と竹も話しを聞いた後、自然観察を兼ねたクリ拾いを午後の半日をたっぷり楽しんだ。以外と多くの収穫を手に手に皆満足そうだった。

10月12~13日 森林ボランティアリーダー研修

「緑と水の森林基金」公募事業

奈良県森林ボランティア連絡協議会主催で下市町で開催。第一日目は森林基金造林地がある同町才

谷で、造林地の概要を聞き、今回の技術研修であるヒモ打ちのやり方、注意点の説明を辻田林研会長より受けた後、猪・鹿害防止ネット沿いにかなりきつい山の中腹まで登り、ノコを使ってスギ・ヒノキで実習。一本一本幹を痛めないよう廻り込みながら愛情を込めて丁寧にヒモ・ヒゲを切り落していった。宿舎のやすらぎ荘で下市町林業の現状につき梶田組合長の講義を受け、地元の人々との交流を兼ねた夕食。

第二日目県林政課南講師から下市町の歴史と産業につき説明を受け質疑応答後、同地区の特産品である磨丸太（徳田銘木）、樽丸（松田商店）、杉割箸（鍵木）の各工場を見学。徳田銘木では数々の仕込みに圧倒され、又山で捨てられていた木に手を加え、新たな息吹を吹きこんだユニークな製品を創り出す技術は見事。森の名手・名人である松谷氏の長年鍛え上げられた匠の技で作られたすばらしい樽丸は一生もの。割箸はコスト面で中国製が凌駕しているにも拘わらず、下市杉の端材を活用して一本一本丁寧に良質の品を作り続けている鍵木。いずれも印象深いものだった。

ヒモ打ち



磨丸太の数々



見事な樽を手に



割箸づくり



10月21日（水） 教員森林環境教育 矢田山遊びの森

—先駆的先進的森づくりボランティア活動支援事業—

”学ぼう！守ろう！里山の自然”をテーマに奈良県森林ボランティア連絡協議会により小・中・高校の先生方を集め実施された。午前中は松井奈良教育大学教授の里山についてのレクチャーのあと、植物観察。アカメガシワが陽を効率良く受けるため下の方の葉柄が長くなっていたり、シイノキの大木の樹冠の葉が互いに重ならないように広がっている様を見た。午後からは当クラブ員により、里山が環境教育のフィールドとして適しており、その保全の必要性、保全すべき観点等の説明後、もみじ谷の雑木林の林内整理、人工林での間伐作業体験を行った。終了の合図にかかわらず作業を続けている先生もおられた。

植物観察



林内整理作業



間伐作業



11月8日（土） 定例活動 「収穫祭」 矢田山遊びの森

あいにくの降り続く雨のため予定れていた「癒しの森」地拵え作業、芋掘りを中止。今日の収穫祭のために山の畑から予め採り入れていた里いも、ごぼう等を使っての芋煮、焚き込みご飯の仕込をする一方、薪割り機の収納小屋用の建材として間伐材の皮剥き等を行った。出来立ての暖かい料理を

お腹一杯味わって、午後からは午前中の作業の続きと、山の辺児童グループの子ども達を対象に小枝、木の実を使つてのエンピツ、もっくん、小動物づくりを指導。この日二人の新入会があった。

皮剥き



里芋焼き



躍動感のある作品



11月15日（土） 「古事の森」 春日奥山

「春日奥山古事の森」育成協議会主催で、一般公募の十数名の参加者による下草刈り作業の指導者として当クラブより8名が参加。古事の森の由来の説明を聞いた後、全員手ガマでヒノキの植栽木を傷つけないよう丁寧に下草を刈取り、保水のため根っこに敷き詰めた。作業終了後一般参加者が近辺を散策する間、我々は近くの「ふれあいの森」で枝打ちを実施。チョット手を入れただけで暗かったヒノキ林にサツ陽が差込み手入れの必要性を再認識。午後は春日大社を参拝、今後の活動の安全祈願のご祈祷を頂いた後、岡本権宮司より同大社にまつわる古事来歴、神山としての春日山についてのお話を拝聴。当日は七五三にて境内は各地から着飾った多くの子ども達で賑わっていた。

下草刈り



春日大社参拝



講話風景



11月23日（日）

\*学校林整備—県立北高校

早朝から生徒50名弱と一部の先生・育友会による同校グラウンド周辺の学校林整備活動に対し、当クラブより5名が指導にあたった。手ノコで間伐、枝払い、玉切り等の他、一本梯子、棹ノコをつかって高いところの枝打ちを体験。一部はチェーンソーを使つての玉切りも行った。その後、エンスにはびこる蔓採りをし次回活動時のリースづくりの材料とした。一息入れてから、「森の学習会」地球温暖化の話しに続いて、竹を使った花瓶、貯金箱、食器等思い思いの作品づくりを楽しんだ。

\*「森について学ぼう！ 間伐体験、バームクーヘン作り」—王寺町菩提キャンプ場

王寺町教育委員会の企画によるイベント。小学生とその保護者60名が応募。当クラブから6名が指導者として参加。午前は自然観察、葉っぱ（しおりづくり用）とドングリ拾い、間伐体験。午後はバームクーヘン作りが行われた。森について色々学び、年輪状のバームクーヘンを味わった一日だった。

11月29日～30日 一第8回紀伊半島三県森林ボランティア交流大会一

「山と海とのつながり」をテーマに”くじらの町”和歌山県太地町で開催。奈良県よりは当クラブ員15名を含む4団体から23名が参加。従来の山/森林を中心としたのとは趣を変えた種々のプログラムを2日間に亘り実施。

第一日目は開会式の後、紀伊大島実験所長、梅本准教授による古座川プロジェクトの紹介を兼ねた「自然域と里域一適正な森里海連関をもとめて一」と題した記念講演に続いて漁港での”ヒロメ”(海草)の種糸差込み体験、潮風・砂地での過酷な条件に強いシャリンバイの海辺での記念植樹。多目的センターで森の再生も目指して一年前から実行委員会の手でドングリから育てられたウバメガシ、ハマボウ他12種の常緑・落葉広葉樹、とイヌマキ合わせて約800本の小さな苗木を堅い法面にアンカーで穴をあけ一本一本丁寧に植付け腐葉土で根元を固めた。夜は当地の名物くじらのコース料理に舌鼓を打ってから、竹ランプ、流木ペイント等4種類の思い出づくりを分かれて体験。後はあちこちで交流・意見交換の輪が広がり盛り上がった。

二日目朝予期せぬくじらの迫込みを見てから、梶取岬を起点とした太平洋に面する海辺の照葉樹林を実行委員のガイドでゆっくりと散策。途中幾つかの観察ポイントでは環境の変化を読み取りながら歩を進めた。最後に場所をくじら博物館へ移し見学、昼食に手作りお握りを頂いて記念撮影、続いて閉会式。来年三重県での再会を約して帰路についた。

実行委員会の行届いた準備に加え、好天にも恵まれ空と海の青さを満喫しながらの充実した2日間。ヒロメの種糸差込み

記念植樹

里山の再生

記念撮影



12月27日(土) ”山の忘年会” 矢田山遊びの森

年末がついそこまで迫ってき、又寒い日にも拘らず40名弱の多くが参加。今日は今年最後の定例活動日にて”山の忘年会”を兼ねた活動。午前中はメインイベントの餅つき、焼きそば作りの準備、大きなクヌギを薪割り機を使っての炭焼き用の薪づくりや、ヒノキの間伐材をクイ用にすべく皮むきや、材を使っての橋の架け替えのための下準備等それぞれ手分けして行った。

昼、代表による会員各位の協力の下、一年間を無事に楽しく活動が進められ事に感謝の挨拶があって、出来立ての焼そば、焼肉、つき立てのお餅を味わいながら暫し歓談。後は片付け、周辺の清掃、山のような落ち葉の処理。最後に切出したばかりの竹を使ってのミニ門松づくり。そして作品を手を”良いお年を”と、来年もまた皆が元気で活動に参加出来ることを願いながら家路についた。

餅つき

薪割り

歓談中

